

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	吉原 悦子	職名	講師	学位	修士(看護学) 大分大学
----	-------	----	----	----	--------------

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学 地域包括ケア	認知症高齢者のケア 地域貢献活動 実習における学生の学び

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者のケア ・実習における学生の学び(高齢者理解について) ・もしバナゲームを活用した高齢者理解について ・聞き書きによる高齢者のライフストーリー

担当授業科目
<p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携協働支援論 ・地域生活支援論 ・老年看護学演習 ・在宅看護学 ・在宅看護学演習 ・看護研究 ・高齢者支援学Ⅰ ・高齢者支援学Ⅱ(開講なし) ・早期看護学実習 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援論(新カリキュラム) ・老年看護方法論 ・看護学(栄養学科)(開講なし) <p>(通年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習Ⅱ ・看護総合演習 ・看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【地域連携協働支援論】

健康、生活、地域という基本的なことに関して、自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージすることから講義を始めた。自身の住んでいる地域を概観し、課題を見出すことを課した。その際には、家族にインタビューを行い生活者としての話を聞くことを求め、実際の課題に着目できるようにした。また、既習の知識である、社会保障概説なども絡めながら、幅広く地域で暮らす人を見る視点を持てるように享受した。また、講義の中では、具体例をあげ、学生がイメージしやすいように話をし、興味や関心を持ってもらう工夫を行った。さらに、地域包括ケアについての基礎的な知識を解説し、社会的背景を理解するように努めた。

<p>授業科目名【地域生活支援論】</p> <p>本科目は、必修科目である。2年次に学ぶ「地域連携協働支援論」に次ぐ科目であり、地域で生活するあらゆるライフステージにある人々の健康を支えるための知識・ケアを学ぶ科目である。</p> <p>そのため、これまでに学んだ各領域の概論や方法論をベースにし、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中で看護師の役割などを講義した。後半の講義で「障害者・高齢者・医療的ケア児」を地域で支えるネットワークを考え、図式化した。昨年度より、コロナの状況により講義形態が変化する可能性があるため、グループワークではなく個人ワークとしての課題とした。しかし、講義中に、周りの学生と意見交換をする時間を設け、自身の課題をブラッシュアップするように促した。最後には、発表する時間を設け、内容を共有した。また、授業評価では課題以外の学習はほとんどの学生が行っていないと回答していたが、毎回の課題をきちんと提出しており、課題を行うことによって復習や調べることもつながっていた。</p>
<p>授業科目名【老年看護学演習】</p> <p>老年看護学概論・老年看護方法論をもとに演習を行った。看護過程の展開と看護技術を行った。事例については2年時の方法論でも触れており、老年特有の疾患で、対象理解を進めていった。事例患者をイメージしながら看護実践が行えるように関連性を持たせ、技術演習を行った。特に豊かな生や意思決定支援についての講義では、対象を理解するための方法や着目点について解説を行った。</p>
<p>授業科目名【在宅看護学】</p> <p>継続看護、多職種連携の講義を担当した。地域包括ケアも含めて、社会的背景、制度を含めて講義した。これまで、各領域の概論や方法論で学んできたことを繰り返し想起しながら、講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を具体的に実際のやり取りや身近な話題を組み込みながら伝えた。</p>
<p>授業科目名【在宅看護学演習】</p> <p>在宅看護学を踏まえながら、演習を行っていった。特に看護過程では在宅の特有の視点と特徴を踏まえることができるように指導を行った。昨年度に引き続き、実習の場面と関連付けておこなった。在宅看護では、いろんな世代を対象とするため、演習内容も幅広いことや看護師だけでなく、多職種と連携する必要や家族への視点も重要であり、特に意識して伝えた。疾患を治療することだけでなく患者さん本人と家族の可能な限り望ましい生活に近づけるための援助を伝えていった。</p>
<p>授業科目名【看護研究】</p> <p>本講義は4名の教員で担当した。研究の基本となる講義とグループワークで講義を構成している。文献クリティークや英論文の要約など研究の基礎となる課題を行い、研究計画書の作成に取り組んだ。また、実際の調査票の作成を行うことや質的研究での分析の一連の流れを行って見た。学生にとっては、難解であった課題もあったが、学生の質問にその都度答え理解が進むように説明を行った。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習・実習】</p> <p>今年度は5人の学生を担当した。看護総合演習・実習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。今年度は、聞き書きをテーマとし、地域在住の高齢者の人生を聞き取るという実習を行った。2人または、3人一組で受け持たせていただき、話を聞かせていただいた。そして、まとめの作業に入る際には、実際に地域で聞き書きを実践されている方に指導を受けながら、作成した。また、地域貢献活動の実践を視野に入れ、乳がん検診についての学びを深めることや地域で活動している企業に話を聞きに行き、見学をさせていただいた。地域での暮らしを支援するための多職種連携について、医療職のみならず、様々な職種との交流が学生の視野を広げる手助けとなった。</p>
<p>授業科目名【老年看護学方法論】</p> <p>高齢者の排泄の自立支援について担当した。基本的な疾患や症状はすでに学んでいるため、高齢者では特に気を付けるべきことについて具体的な場面を盛り込み、講義を行った。</p>
<p>授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】</p> <p>3年生後期から4年生前期にかけての実習である。この実習では、高齢者施設での実習であり、コロナ感染対策のため、学生の施設への立ち入りはできなかった。しかし、教員の施設への立ち入りを可能にさせていただき、オンラインで施設の療養者と学内の学生をつなぎ実習を行った。しかし、画面上では、療養者の全体像が見えにくい実習であるため、学生の考えや捉え方を十分に確認することや職員へのインタビューを行</p>

いながら療養者の生活の全体が把握できるように行った。また、訪室する時間帯を変えて食事の様子や他の入居者とのかかわり、歩行状態や施設の設備などを画面上で映し、学生が施設に入所する高齢者の生活を環境も含め把握できるように工夫した。高齢者は難聴や認知力の低下がありオンラインでのコミュニケーションは難渋したが、パソコンや外付けのスピーカーなどを使用し、出来るだけ直接やり取りができるようにかかわった。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。オンラインの中でも一緒に歌を歌ったり、療養者が行ってみたいと思っている土地の写真を会話の中に盛り込み、グーグルマップを利用し、オンラインならではの紹介も組み込み、気分転換活動へのケアも提供できた。また、今年度は、介護老人保健施設での半日ではあったが実習を行い、実際の施設を見学し、ケアを見学させていただいた。このことは、実際に廊下の広さや、居室やトイレといった生活空間を見ることで療養者の生活をリアルに体験でき、施設における看護についての理解が深まったといえる。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

本科目は、保健福祉学部 3 学科合同の科目であり、アクティブ高齢者への支援について、講義と PBL（事例検討）を通して検討した。本年度は対面での授業で実施したため、3 学科合同の特性を生かし、議論ができるように工夫した。

授業科目名【地域生活支援論（新カリ）】

新カリキュラムより、1 年生後期科目として組まれている。そのため、これまでより具体的に落とし、できるだけ抽象的な表現は避け、講義を行った。また、必ず、講義の中で、こちらが提示した内容について考える時間や友人とディスカッションをする時間を設けた。看護は人々の暮らしを理解することが必要であるが、何気なく暮らしていることを意識し、生活や暮らし、属している集団などを振り返ることを心掛け、学生自身も生活者であることを意識づけた。また、これまでは既習の知識として持っていた社会保障についても並行で講義が行われるため、社会保障の教科書も使用して関連についても講義した。

しかし、地域包括ケアシステムに関する基礎知識は理解するのが難しいため、社会的背景をできるだけ具体的に起こし、理解を進めていった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001. 4～現在に至る
日本老年看護学会		2003. 4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003. 4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006. 4～現在に至る
日本看護科学学会		2008. 6～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016. 5～現在に至る
血管看護研究会		2021. 11～現在に至る

2021年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) COVID19 感染状況の変化に対応した老年看護学実習方法の検討	共	2023. 3	西南女学院大学紀要	①COVID-19 拡大に伴い臨床実習形態を変更した。その内容を検討した。 ②A4 版総頁数:147 頁、p133-142 金子由里、溝部昌子 吉原悦子

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) (その他)				
	共			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護師による POCUS 活用に関する研究—DVT 予防対策と安全なケアへの効果—	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (B)	○溝部昌子、 <u>吉原悦子</u> 、金子由里	910,000 円 (R4)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市障害支援区分認定審査会 第7回血管看護研究会	委員 実行委員	2021年4月～現在まで 2022年5月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室員 2020.4～2023.3 ・予算配分委員 2022.4～2023.3 ・看護学科2年生アドバイザー 2022.4～2023.3 ・看護学科物品係 2021.4～2023.3 ・認知症サポーター養成講座 2023.1.19